

第四十六回中央教化研究会議 基調報告

原発をこう考える 教区教研会議報告

北関東教区 仁部 前崇

東北教区 安芸 栄祥

山静教区 小屋 嘉正

中部教区 清水 要教
北陸教区 浅野 修章

司会 では定刻になりましたので、まず基調報告といたしまして、原発をテーマにして、この一年間で教区の教研会議を開催いただきました。実は一つだけ、これからというところがあるのでございますが、五つの教区の代表の方とその教研会議の報告、あるいはその後の展開というようなことについてご報告をいただきたいと思っております。

お手元に「原発をこう考える 教区教研会議報告」というつづりがあろうかと思っておりますので、それを見ていただきながらご報告を聞いていただければと思います。北関東教区・東北教区・中部教区・山静教区・北陸教区という順番になっておりますが、これは開催された日時の順番で並べているということでございます。本宗における教区順とは異なっておりますが、ご了承いただければと思います。

では、まず北関東教区の代表、仁部上人、ご報告をお願いいたします。

仁部 おはようございます。北関東教区を代表いたしましたして、埼玉県教化センターの副センター長を仰せつかっております、仁部前崇が報告をさせていただきます。

まず、北関東教区と申しますと、茨城・栃木・群馬、そして埼玉の四県から構成されております。昨年度、十月九

日に開催いたしました教区の教化研究会当番管区ということで、私どもの方で報告をさせていただきます。

報告の前に、一昨日のことですが、埼玉は安全な場所と自負しておったのですが、竜巻が発生いたしました。各方面、宗務院をはじめ、管区にまたお見舞いをちょうだいいたしました。昨日まで確認しましたところ、管区寺院に大きな影響がなかったということで、所長の方からも「くれぐれも、ありがとうございますということを伝えてくれ」と言われておりますので、ここで御礼方々、ご報告申し上げます。色々とありがとうございました。

それでは、本題に移らせていただきます。平成二十四年十月九日に、埼玉県さいたま市にございます「ラフレさいたま」で「第十九回北関東教区教化研究会」を開催いたしました。この開催に当たりまして、現宗研の皆様からご指導を頂戴いたしました中で、初めて「宗報」に要綱を記載して、教区・管区外の方からのご参加も募集するというスタイルをとらせていただきました。

これにつきましては、基調講演の講師として、福島原発の二十キロ圏内に位置する富岡町の現職の町長さんにおいていただくということがございましたので、我々のこの業界におきましても、行政の首長さんと直接意見を交わすという機会があまり得られない中で、貴重な時間ということで、ご案内をさせていただきます。教区外のご上人の方からも参加をいただき、総勢四十六名の参加をいただきました。

富岡町長の遠藤勝也様と申しますのは、私の自坊でございます町と姉妹都市を提携しております。交流の後にこの震災に遭って、大変ご支援をさせていただいた交流の中からおいでいただくこととなりました。この町長のお話ということで、震災直後の様子、そして町に戻れない現況、住民の様子、これからの展望などをスライド映像に併せてご講演をいただきました。報道等では見られない、立ち入りのできない地域の映像等も拝見し、本当の厳しさ、色々なものを勉強させていただきました。

併せまして、富岡町にごございます本宗寺院、妙栄寺の御住職、武田上人にも、僧侶としての立場から『現在の布教

と問題』ということで、基調報告も頂戴いたしました。レジュメに書いてありますとおり、いろいろな形で規制をされた中での、その場所に戻れない、帰れない、再出発できないという葛藤というのを、我々も遠い場所から改めて確認をさせていただいたところでございます。

その講演の後に、分散会。これは、現宗研の方からありました、原発の現場の教化センターからの問題提起ということや、リスクコミュニケーションの視点からということで、被災地支援を考えるとという大きな枠組みの中で、いろいろと討議をしていただきました。

現実問題として、われわれ北関東教区でも、震災によって各寺院が倒壊したり、灯籠や山門が壊れたりという被害があり、原発については放射線量が高くなったという一時的なものもございました。ただ、もう半年か一年の中に、そういうものがだいぶ薄れてきて、この当日は現場の報告・写真などを見ながら遠い向こうの話のようなことを考えましたが、どう考えるか、どうしようかというのが、現実的な部分とだいぶ開きがあるというのを感じたところでございます。

その後、わが埼玉県管区では何ができるかということで、宗務所と社会教化事業協会と提携して、震災救援募金ということで、これはもう二十年継続をしておりますが、災害の被害に遭われた管区教区に、管内から集めさせていただいた募金をお送りさせていただいております。今回は震災遺児の方へということで、一昨年から半永久的に継続しているということ、募金をさせていただいております。

それと、大規模災害の緊急時における管区安否確認システムを確立しようということで、各地域の皆様のご意見を頂戴しながら、今進めているところでございます。なかなか教区的に難しい場所での難しいテーマでございましたので、どこまで現宗研の意図するところ、目指すところに近づけたかは分かりませんが、我々の中でもう一度きちんと確認をして、立ち位置を考えようということが一つの答えになったかと思っております。

以上でございます。

司会 仁部上人、ありがとうございます。

引き続きまして、東北教区の安芸上人からご発表をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

安芸 こんにちは。昨年度の東北教区教化研究会議は山形県担当ということで、教研運営委員として今日は発表せよということでございますので、私が急遽発表することになりました。

平成二十四年十月二十五日、二十六日に、平成二十四年度第三十回東北教区教化研究会議を開催いたしました。中央教研と同じく、「三・一一後の『立止安国』を考える―復興の教化学構築のために」ということで、まさしく現宗研と同じテーマで開催をさせていただきました。

基調講演としては、「原子力文明再考」ということで、現宗研の三原所長様にご講演をいただきました。

後に、分科会に先立ちまして、東北六県内の三県が被災地でございますが、殊に原発事故の被災をされた福島県の教師の方に現況を報告していただきました。そこでは、寺が立ち入り禁止区域で戻れない―後ほど福島の瀬戸上人からもご報告があると思います―それから、檀信徒の所在、避難場所がばらばらで布教活動が大変である。それから、風評被害が多大である。観光地や農林水産物などですね。それから、福島県出身というだけで拒否反応されるときがあった。これは、ホテルの予約をしようとしたときに、そんなこともあったということがあります。それから、避難先の小学校で子供がはじめにあったということが報告されました。

当日は分科会を設けまして、Aは「日蓮教学から見たフクシマ原発をどう捉えるか」、Bは「布教の現場で原発をどう伝えるか」というテーマを設けました。これはまさしく中央教研で行われた分科会と同じテーマから、二つピッ

クアップした内容でございました。

四十四名の参加でございましたので、いつも感じておりましたが、年齢層の高い先輩教師の皆さんが意見を出されると若い青年僧はなかなか意見を出しにくいという状況があったものですから、それぞれの立場で活発に意見を出してもらいたいという思いで、一つのテーマの中で壮年僧と青年僧にテーブルを分けて分科会を催しました。その結果、やはり思ったとおり、いろんな活発な意見が交わされたということを知っております。

今日ここで、同じテーマの中から、壮年層と青年層の意見の違いを出せればよかったのでしようけれども、紙面の都合もありまして、今回は青年・壮年の両方の意見の中で、共通認識として捉えられた内容としてご理解をいただきたいと思えます。

Aの「日蓮教学から見たフクシマ原発をどう捉えるか」をテーマにした分科会の報告でございますが、まず、「立正安国論は私たちへの問いかけとして捉えるべきであろう」という意見が出されました。さらに、「非常にテーマが重い」という不満の声も聞かれました。

そんな中でそれぞれ意見を出していただきましたが、「三・一一後、改めて考える点が多々あったなかで、『いのちに合掌、環境・平和・いのち』そのままの問題・課題であり日蓮宗とすれば反原発であるという覚悟がなければならぬのではないか」という意見が出されました。

また、「メディア論では、電力を使用する現代、原発なくして生活が成り立つのか」という意見もありました。

「教学の面においては立正安国論を世間に知らしめず絶好の機会であると捉えるべきである」、「宗門教師も日蓮大聖人の思いと考えを再度勉強し直すべき時と考える」、「さらに「震災にあっても救われた命、残された命を前向きに考え、僧侶として被災者に物心両面のサポート及びケアに努める事が重要であろう」、「また「多少不便であっても少欲知足の教えに基づく生活に改め、原発に頼らない生き方を推奨するべきであろう」ということが、Aの方の分科会

で話し合われた壮・青年層の共通認識として出された意見でございます。

Bの「布教の現場で原発をどう伝えるか」というテーマの分科会報告でございますが、「原発を抱える地域では原発に多様に関わっている人間関係上、原発を題材にした布教を展開するのは容易ではない。一般論にとどまる話しかできない状況である」。また、「布教現場では原発について宗門として何を捉え、何をどのよう伝えるのかについての見解や布教方針を明示して欲しい。それに基づいて教区、管区、寺院、教師と現場の布教・発言の方向性が明らかになり、宗門一体となって布教展開ができるのではないか」という意見が出されました。また、「原発を抱える地域では風評被害・略奪被害があり、お題目信仰だけで救済するのは困難である」という切実な意見も出されました。「理不尽な問題に対しては『法華経の教え』や『お題目の力』を信仰する生き方の功德を説く布教が必要であろう」ということであります。また、「節電・節約に努める社会趨勢の中で、冷暖房の使用を控えればケチと言われ、自動車で檀家廻りをすれば贅沢と言われ、個々の寺においては原発を布教題材として扱いにくい」という意見が出されました。また、まとめた意見になってしまっていますが、「こういうテーマで意見交換したことは学習になり今後の布教活動に活かせるのではないか」ということであります。

反省点といたしまして、一つは、テーマがちよっと大きすぎて意見が集約しにくくなったという点があります。テーマをもう少し絞ってやるべきだったのではないかと反省です。またもう一つは、政治的要素があるので、非常に難しい問題であったという意見が出されました。

なお、分科会の座長さんには、それぞれテーマに沿っているいろんな問いかけのキーワードを出してもらったのですが、これまた非常に「学問的」と言われると難しい」という答えが大多数でありました。それから、「原発をどう布教の現場で伝えるか」ということの中でも、先ほど申し上げたとおり、「非常に扱いにくいものである」ということが非常に多かったと感じております。

以上、報告いたします。ありがとうございました。

司会 安芸上人、ありがとうございました。

引き続きまして、中部教区教化研究協議の報告を、清水上人、お願いいたします。

清水 失礼いたします。中部教区を代表いたしまして、長野県宗務所教研運営委員清水要教が報告をさせていただきます。

第三十六回中部教区教化研究協議は、長野県担当で、諏訪市RAKO華乃井ホテルにおいて行われました。講師は現宗研主任の高佐先生をお呼びいたし、テーマ『原発をどう捉え、どう伝えるか』という講題で、お話を聴きたいました。

もう一方の講師をお呼びしたのですが、紙面の都合上そちらの方を記載しておりませんので、簡単にご説明いたします。講師の先生は、長野県飯田市にあります「おひさま進歩エネルギー」という太陽光パネルを扱っている会社の社長さんをお呼びいたしました。そちらの方は元々、いわゆる原発推進の考えの方でございました。その方は、地球温暖化という観点から、火力発電を減らして、温暖化を抑えていくという考え方ではあったのですけれども、原子力発電のもたらす核廃棄物の問題でありますとか、そういったことを、その方のお兄さんが「このままでは地球がだめになってしまうのではないか」という、そういうことを言われたそうであります。そう言われたときに、では、われわれに何ができるかということで、太陽光パネルを始められて、長野県の飯田市というところは、どうやら日光の効率が良くて、太陽光発電にとっても適した場所であったということでありまして、

この「おひさま進歩エネルギー」という会社は、地元エネルギーの地産地消ということで、太陽光発電を飯田市内

でつくり消費していくという考え方の下、地元の方々からファンドとして資金を集め、運用されているということがあります。

ちよつと戻りますけれども、「原発をどう捉え、どう伝えるか」という高佐先生のお話のことではありますが、第一回の運営会議が昨年六月ぐらいでございました。その当時は、マスコミを含め情報がほとんどは原発・脱原発ということで、もうそういった「原発賛成」という意見がほとんど聞こえてこないような状態で、何気なくテレビや情報を見ておきますと、これは原発だけになってしまふのかという印象と、われわれの知識不足もあつたものですから、高佐先生にはあえて原発を肯定していただくようなお話をさせていただきました。

その中で、中部教区の教研では、分散会・分科会というものを行わず、全体会議として、高佐先生や原先生に対する質疑応答という形で行わせていただきました。

その中で、質問の①というところがありますが、「今回の講義が宗門の見解だとするとやや反脱原発に思えるが日蓮宗僧侶としての統一の見解は必要か？」というのがあります。今回、講義の内容があえて反脱原発というような話でございましたので、こういう質問になってしまったのであります。「現在の日蓮宗は穏やかな反原発の姿勢。即時全面停止、再稼動絶対反対をすると弊害が多すぎるという立場をとっている」。「研究会議を通して宗門全体を盛り上げてみんなで議論をしたい。その中で日蓮宗の見解を出す」と。今回の提案にもつながっていくことであります。

②といたしまして、特に高佐先生より資料を大変たくさんいただきました。経済に関するものでありますとか、例えば原発のエネルギーを火力で補うと、どのぐらいの費用がかかるかですとか、健康に関するものわれわれが考える放射線というものの危険度と、専門家の考える放射線の危険度の違いですとか、そういった資料、あるいは『SAP I O』をはじめとする雑誌に掲載されたものですとか、そういったものを提示していただきました。

そういったものの中の質問といたしまして、「経済的損失が強調されたが、仏教者としての立場で命の問題を論ず

る場合、長寿であれば幸せかというのとはまた別の問題ではないか」という質問がなされました。

紙面の関係上載せてありませんが、皆様ご存じと思いますが、全日仏の宣言文でございます。「全仏の言う命だけが命か？ 全仏の言う命は我々の思う命か？ あるいは法華経の説く命か？ 日蓮聖人の命か？ 命の質が問えるのは豊かな安穏な社会にいるが故の贅沢な部分が相当ある。全仏が問題にしている命のレベルが低いと我々は考えなくてはならない。ただ経済はものすごく大事なもので侮ってはならない」、そういった答えをさせていただきました。

なお、付け足してありますが、「少欲知足だけでは生きていけない。少欲知足が日蓮宗の本流、根本という事になったら皆さんどこまで実践しているのか。僧侶は、きれいごとと建て前で済ませようとする人種だと世間は見ています」。その後、真言宗の方の意見ですとか、空海の「大欲清浄」という言い方だとかをたとえに出されて、高佐先生はお答えにられました。

③番となります。「原発を一〇〇%止めてしまうのはこれからの生活の面でも懸念している。経済的な実を採るのか、それとも被災者や風評被害に遭う農家の方達の心境を採るのか？ 我々宗教者が一般の方々に話をする時にどのようにすればよいのか？」という質問がなされました。高佐先生はそれに対しまして、「個人的な意見ですが、福島で被害に遭われた方々を賠償するより仕方がない。福島へは当分戻れないと思う。ある学者が一兆円かけて除染するなら一兆円を被災者に配ればよいと言われたが、それもひとつの手で、集団移転を考え、そういう形で心のケアをしながら経済的な賠償は東電や政府が直接していくより仕方がない。また、核を拡散させない為に避難区域の使い道として処理施設を作ることが全体の利益になっていく。他の場所では受け入れが難しいと思います。

風評被害の問題では、日本の作物を全く受け入れなくなってしまう国もあります。日本国全体が風評被害を受けている。政府の甘い数値設定や感情論に流されず、自分達で調べられることは調べて、そして風評被害者に対して物心両方の面でケアをし、支援運動や呼びかけをしていかなければならない」と述べられました。

今回のこの教研に関しましては、高佐先生に大変ご無理を申し上げて、あえて原発に対して肯定的な意見を述べていただいたということを付け加えさせていただきます。報告を終わりとさせていただきます。失礼いたします。

司会 清水上人、ありがとうございました。

引き続きまして、山静教区の代表で小屋上人にお願いをいたします。

小屋 ご苦労さまでございます。

昨年度の山静教区の研究会議は、静岡県西部が担当いたしました。山静教区は所長任期の四年間、同じテーマで教員会議をやっているということを決め、始めてまいりました。『安穩なる社会づくり』ということで、昨年は石巻の法音寺の谷川上人をお招きいたしました。震災からのいろんなお話をお聞きし、僧侶でなければできないということとをテーマに勉強をさせていただきました。

今年、静岡県西部は、同じ『安穩なる社会づくり』ということで、平成二十四年十一月二十六日に、現宗研の三原所長、そして所員がお二人と、地元の所長、事務長、それに地元の市会議員、ボランティアの会の十名で、浜岡原子力発電所を所員の案内で視察をいたしました。それは、詳しくは「宗報三月号」に出ておると思います。あいにくのお天気でありまして、中部電力が自慢をしている二千億円を掛けた堤防は近くで見ることができませんでしたが、一応説明を聞いてまいりました。

研究会議は二十五年の二月七日に開催をいたしました。現宗研所長さんの『原子力文明再考』という基調講演をいただきました。その中で一番頭に残ったのが、「石橋湛山先生の小日本主義を参考に現代社会を見つめ直す。少欲知足ということをもう一度考えてみるべきだ」というようなお話がありました。

分散会は三つに分けまして、日蓮教学から「フクシマ」をどうとらえるか、予想される東海地震を踏まえた浜岡原発をどうとらえるか、三番目として、被災者支援をどうとらえるかというようなテーマで、協議をしていた。第一分散会では、東京都知事の天罰発言について、「一理あるが、福島の被災地の方に与えられた問題ではないよ」ということを皆さん共通しておっしゃっておりますし、「ともに苦しみ合い、その苦しみを分かち合うようなことをしていこう」ということであります。

第二分散会は、宗門としてまだ方向性が出ていない現状で原発についての是非を出すのはちょっと難しい。宗門のほうできちんと方向性を出したら、それに乗っていききたい。ただ、災害が起きた場合は、寺がご遺体の安置所になるのは当然だから、その辺も覚悟をするなり、片付けるなり、準備を行うべきとのことでございます。

と申しますのは、静岡中部宗務所が、「耐震工事はどんなものですか」ということで、各寺にアンケートを出しました。耐震工事を実施した寺院は、全体の二十四%、また、過去帳、檀信徒名簿の保全等々を考えているところが二十八・五%、検討中というのが大部分であります。このように、まだまだ震災・防災に対しての考え方が行き渡っていない。また静岡県と山梨県では、防災に対する、また震災に対する考え方も温度差があったような気がします。

最後に、第三分散会。ここでは、静岡県西部宗務所管内は浜岡原子力発電所の三十キロ圏内に大部分の寺院があり、そのようなことで一番皆さん心配をされております。先ほども申し上げましたように、三原所長が見えて、直接お話を聞きたいということでお寺さんに電話を掛けたところ、大部分の方が原発に関係する仕事に就いていて、「どんなところから話が漏れるか分からないから」ということで、全部お断りをされました。一ヶ寺もお話を聞かせていただけませんでした。そんなところで、原発を即時停止というのは地元では本当に難しいような気がいたします。

参考として見ていただければ結構ですが、最後のページにこれが浜岡原子力発電所の概要を付けてあります。二番目の数字を見ていただけると分かるように、俗に言う電源立法です。昭和五十年から五十三年、一号、二号、五十八

年から六十三年が三号機、四号機が平成元年から十年、五号機が平成十二年から平成二十一年ということ、これだけのお金が小さな町に下りるわけです。どうしても町民の要望が強く、ここに頼らざるを得ないというのが現状です。最後の浜岡町の人口推移と決算を見ていただければ、一番よく分かると思います。昭和四十五年に一万七千七百七十人、決算が八十四億二千九万五千円ですか、それが全部この原発が動きますと、百六十億近いお金が入ってくるわけです。そうすると、どうしても地元行政としてはこれに頼らざるを得ないというのが現状で、どうしても強く言えない。原発即時停止というのは言えないというのが現状ではないかと思えます。

しかし、われわれ教師というものは、こういうものに関しまして檀信徒協議会を通じたりして、原発について今後協議をしていきたい。そして檀信徒青年会もそこに巻き込んで、一緒に考えていこうというようなことで結論付けました。

雑駁ですが、以上でございます。ありがとうございました。

司会 小屋上人、ありがとうございました。

以上の四教区が、昨年度、原発問題を取り上げていただいた教研会議のご報告ということになります。

引き続きまして北陸教区の浅野上人にご報告をいただきますが、北陸教区は今年度、これから十一月の六日、七日の日程で教研会議を持っていただき、基調講演には現宗研三原所長が伺いましてお話をさせていただくという予定になっております。なにしろ北陸教区、ことに今般は福井県南部宗務所が年番のご担当ということでございまして、いわゆる原発銀座と言われるようなところの代表的な地区でございしますので、その教区の方が教研会議を持たれることについてのご報告をしていただかないと。これから教研会議を持っていただくので、その報告というのはなかなか難しいところがあるのでございますけれども、北陸教区、福井南部の今の現在の姿勢というふうなものについてご報告

をいただいた上で中央教研へ持っていきたいということで、あえて無理にお願いをして、ご報告をいただくということでございます。

浅野上人、よろしくお願いいたします。

浅野 失礼いたします。本年度、北陸教区教化研究会議の当番管区、福井県南部宗務所の浅野修章でございます。どうぞよろしく願います。

先ほどご説明いただきましたとおり、北陸教区ではまだ、原発をテーマにした会議は行われておりません。本年十一月の六日、七日に、現宗研所長の三原先生を講師にお迎えいたしまして、話し合いをしたいと考えております。

北陸教区内は、福井県、他にも石川県、新潟県にも原発が立地しておりますので、各地域ごとの考え方もさまざまにあると考えまして、福井県南部といたしましては、福井県南部の現状を皆さんに知っていただいた上で、「私達宗教者が原発立地地域において出来ること」を協議したいと考えております。本日は、そのときにお話しさせていただく内容を同じようにお伝えする形になりますので、どうぞよろしく願います。

福島原発の事故以来、反原発の動きも高まりました。福井県の若狭地方は原発銀座と言われる所で、今現在も日本で唯一、大飯原発が稼動中でございますので、大変いろいろな面から皆様の注目を集めることとなっております。現在、福井県内でも、敦賀発電所二基、もんじゅ一基、美浜発電所三基、大飯発電所四基、高浜発電所四基、計十四基の原発が集中しておりますが、こんなに件数が多かったというのも、阪神地方に近いこと、また過去に災害等の被害が少なかったということから、原発立地が進められてきたのではないかと思われまます。

昨年、大飯原発が再稼動されましたが、近隣住民はやはり不安な気持ちもたくさん抱えております。今年度十一月に会議を行います福井県小浜市という地域には、泊（とまり）地区という場所がございます。こちらは海越しに大飯

原発が見える位置にありまして、その距離が直線距離で約4kmという位置でございます。また、高浜原発に向かうにしても、車で約二十分、大飯原発に至っても同じぐらいの距離で、原発を直接近くまで見に行くことができるというような大変近い距離でございます。

当然ながら風評被害もたくさんあります。過去に聞いた話では、ある女性が他の地域の男性と結婚をするためにご両親に挨拶に行きましたら、結婚を両親から反対されました。その方から、「放射能の被害を浴びた人間が元氣な子供を産めるのか」と言われたというふうに伝え聞いております。

原発に対する思いはすぐいろいろありますけれども、福井県若狭地方には地元を支える主な産業がありません。地元で仕事をしながら家族を養っていくためには、原発がないとなかなか難しいという現状にあります。原発に関わる下請け業者・民宿等、原子力発電所で働く人だけでなく、さまざまな仕事に影響が大きく出てまいります。

確認しましたところ、今現在、原発関係の仕事に従事していらっしゃる方は、福井県若狭地区で約七割と言われております。福井県若狭地区では原発が地域に密接に関わっております、稼動していても停止していても、危険性からは開放されないという大変不安な気持ちと、また仕事を持ちながら家族を養わなければいけないという現実の問題にも挟まれてまして、なかなか地元にいる状態では、原発の推進か反対かということは、決められないという現状でございます。

十一月に行われます北陸教区教化研究会議におきましては、その福井県若狭地区の現状を見ていただいた上で、何か私たちに出来ることはないか話し合いたいと考えている次第でございます。以上で報告を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

第46回中央教化研究会議

「原発をこう考える～教区教研会議報告」

原発をテーマに教研会議開催の教区代表

北関東教区	(仁部 前崇師) . . .	1 頁
東北教区	(安芸 栄祥師) . . .	2 頁
中部教区	(清水 要教師) . . .	3 頁
山静教区	(小屋 嘉正師) . . .	4 頁
北陸教区	(浅野 修章師) . . .	7 頁

平成25年9月4日(水)

品川プリンスホテル

基調報告 「原発をこう考える～北関東教区教化研究会議報告」

埼玉県教化センター 副センター長 仁部前崇

「第19回北関東教区教化研究会議」

H24.10.09 於：埼玉県さいたま市 「ラフレさいたま」

- * テーマ『原発問題について』被災地の現状からどう捉えるか
- * 基調講演 『東日本大震災及び原子力発電所の状況と今後について』
講師 福島県双葉郡富岡町 町長 遠藤勝也氏
 - ・ 福島第一原発の20*。圏内に位置する富岡町の震災直後の様子 町に戻れない現況 住民の様子これからの展望などをスライド映像に併せて講演

基調報告 『現在の布教活動と問題』

福島県双葉郡富岡町 妙栄寺 住職 武田寿法上人

- ・ 事故直後より今現在まで避難生活を強いられているなかでの 体験談や現状の取り組み、問題点等を報告
- 各地に避難している檀信徒とのコミュニケーションの難しさ、行政からの仮設住宅での宗教活動の自粛要請による法要場所・納骨場所の確保・除染の問題
- 孤独を感じての自死、不安定な精神状態の高齢者が多いなか、足を運び傾聴活動をしている取り組みの紹介
- * 分散会
 1. 原発の現場の教化とは 教化センターからの問題提起
 2. 布教の現場で原発をどう伝えるか リスクコミュニケーションの視点から
 3. 被災地支援を考える
 - ・ 危機管理や状況の共有化が出来ていない
 - ・ 僧侶がどのように原発問題に関わっていくべきか
 - ・ 全ての核は不要であり、平和利用はありえない
 - ・ 「少欲知足」を心がけ、現代に生きる全ての者が過剰な電力利用をやめるべき
 - ・ 事故を招いた原因を何度も検証すべきだ
 - ・ 原発の安全神話を鵜呑みにしていたことを反省すべき
 - ・ 原発の立地地域は今まで大きな恩恵を受けてきた。電力会社だけの責任では？
 - ・ 被災に苦しむ人をどのように救済していくか考えることが何よりも重要
 - ・ 関西方面では無関心だった。他人事と感ずてしまう人心を正していくことが重要
 - ・ 国家の政策にまで我々が論じる必要があるのか
 - ・ 被災した人をケアすることが僧侶としての使命である
 - ・ 宗門として新しい生き方を発信すべき
 - ・ 僧侶にしか出来ないことを考えるべき
 - ・ 日蓮宗独自の教義的見解で原発問題を捉える必要がある
 - ・ 避難所に赴いて傾聴活動する
 - ・ 「いのちの合掌」を再認識
 - ・ 宗門はもっと避難者に金を出すべきだ
 - ・ 福島原発が問題なのか、原発の存在そのものが問題なのか、議論すべきテーマとして焦点が絞りにくい 日々のお寺の在り方から考える方が切り口としていいのではないか
- * その後の取り組み

埼玉管区

宗務所と社会教化事業協会との連携による震災救援募金（震災遺児）の継続
大規模災害緊急対策 緊急時における管内安否確認システムの確立計画

以上

第30回 平成24年度 東北教区教化研究会議 報告

○日時 平成24年10月25日(木)～26日(金) 山形県宗務所担当

○基調講演 講師 日蓮宗現代宗教研究所所長 三原正資 氏
演題 「原子力文明再考」

○分科会に先立ち福島県の教師に現況を報告して頂いた。

- ・寺が立ち入り禁止区域で戻れない。・檀信徒の所在、避難場所がばらばらで布教活動が大変
- ・風評被害が多(観光地や農林水産物)・福島(出身)というだけで拒否反応される。
- ・避難先の小学校で子供がいじめにあった。

○分科会 A.「日蓮教学から見たフクシマ原発をどう捉えるか」

B.「布教の現場で原発をどう伝えるか」

をテーマに活発な意見交換を図りそれぞれ青年層(僧)と壮年層(僧)に分かれて討議。

A.「日蓮教学から見たフクシマ原発をどう捉えるか」をテーマにした分科会報告

- ・3.11後改めて考える点が多々あったなかで、「いのちに合掌・環境・平和・いのち」そのままの問題・課題であり日蓮宗とすれば原発であると言う覚悟がなければならない。
- ・メディア論では、電力を使用する現代、原発なくして生活が成り立つのかと言う見解もある。
- ・日蓮宗教師として原発と社会・経済・生活等の問題や認識の統一したコンセンサスが必要。
- ・教学の面においては立正安国論を世間に知らしめず絶好の機会であると捉えるべきである。
- ・宗門教師も日蓮大聖人の思いと考えを再度勉強し直すべき時と考える。
- ・震災にあっても救われた命、残された命という前向きに考え、僧侶として被災者に物心両面のサポート及びケアに努める事が重要である。
- ・多少不便であっても小欲知足の教えに基づく生活に改め、原発に頼らない生き方を推奨する。

B.「布教の現場で原発をどう伝えるか」をテーマにした分科会報告

- ・原発を抱える地域では原発に多様に関わっている人間関係上、簡単に原発を題材にした布教を展開するのは容易ではない。一般論にとどまる話しかできない状況である。
- ・布教現場では原発について宗門として何をどう捉え、何をどのように伝えるのかをテーマにした見解や布教方針を明示して欲しい。それに基づいて教区、管区、寺院、教師と現場の布教や発言の方向性が明らかになり宗門一体として布教展開できるのではないか。
- ・原発を抱える地域では風評被害・略奪被害があり、お題目信仰だけで救済するのは困難。理不尽な問題に対しては「法華経の教え」や「お題目の力」を信仰する生き方の功德を説く布教が必要。
- ・節電・節約に努める社会趨勢の中で、冷暖房の使用を控えればケチと言われ、自動車で檀家廻りをすれば贅沢と言われ、個々の寺においては原発を布教題材にするのは扱いにくい。
- ・こういうテーマで意見交換したことは学習になり今後の布教活動に活かせるのではないか。

第36回 日蓮宗中部教区 教化研究会議記録

平成24年10月26日開催

会 場 諏訪市 RACO 華乃井ホテル

講 師 日蓮宗 現代宗教研究所 主任 高佐 宣長 師

テーマ 『原発をどう捉え、どう伝えるか』

質疑応答

『高佐宣長師への質問』

○ 全体会議（質疑応答）

『原発をどう捉え、どう伝えるか』

1、今回の講義が宗門の見解だとすると、やや反脱原発に思えるが日蓮宗僧侶として見解の統一は必要か？

・現在の日蓮宗は穏やかな反原発の姿勢。即時全面停止、再稼働絶対反対をすると弊害が大きすぎるという立場をとっている。研究会議を通じて宗門全体で盛り上げてみんなで議論をしたい。その中で日蓮宗の見解を出して行きたい。

2、経済的損失が強調されたが、仏教者としての立場で命の問題を論ずる場合、長寿であれば幸せかというのはまた別の問題ではないか。

・全仏の言う命だけが命か？全仏の言う命は我々の思う命か？あるいは法華経の説く命ですか？日蓮聖人の命ですか？命の質が問えるのは豊かな安穏な社会でいるが故の贅沢な部分が相当ある。全仏が問題にしている命はレベルが低いと我々は考えなくてははいけない。ただ経済はものすごく大事なもので侮ってはいけない。

・少欲知足だけでは生きてはいけない。小欲知足が日蓮宗の本流、根本という事になったとしたら皆さんどこまで実践しているか。僧侶は、きれいごとと建て前で済まそうとする人種だと世間は見ています。高野山真言宗の官長は少欲知足は本宗の思想ではないと表明した。空海は大欲清浄という言い方をしている。参考にすべきと思う。

3、原発を100%止めてしまうのはこれからの生活の面でも懸念している。経済的な実を取るのか、それとも被災者や風評被害に遭う農家の方達の心境を取るのか？我々宗教者が一般の方々に話をする時にどのようにすればよいか？

・個人的な意見ですが、福島で被害に遭われた方々を賠償するよりしょうがない。福島へは当分戻れないと思う。ある学者が1兆円かけて除染するなら1兆円を被災者に配ればよいと言われたが、それもひとつの手で、集団移転を考えたり、そういう形で心のケアをしながらか経済的な賠償は東電や政府が直接支援していくより仕方ないと思う。また、核を拡散させない為に避難区域の使い道として処理施設を作ることが全体の利益になっていく。他の場所では受け入れが難しいと思います。

風評被害の問題では、日本の作物を全く受け入れない国がたくさんある。日本国全体が風評被害を受けている。政府の甘い数値設定や感情論に流されず、自分達で調べられることは調べてきちんとした分別をする。そして、風評被害者に対し物心両面でケアし、支援運動や呼びかけをしていかなければならない。

第 37 回山静教区教化研究会議報告

担当 静岡西部宗務所

開催期日 平成 25 年 2 月 6 日
会 場 静岡県掛川市
テ ー マ 3.11 以後の『安穏なる社会づくり』

◎ 平成 24 年 11 月 26 日

現宗研 三原所長 研究員 2 名 担当管区所長 事務長 2 名
教化センター 2 名 地元市議 ボランティア会々長 計 10 名にて、
中部電力浜岡原子力発電所を発電所々員の案内にて視察
(詳細・・・宗報 3 月号 現宗研だより 参照)

◎ 基調講演

講師 日蓮宗現代宗教研究所 所長 三原正資 師
演題 『原子力文明再考』

原子力平和利用のスローガンもと、政治・学者・企業が押し進めて来たがその原子力安全神話も、3.11 を境に崩れたと自覚すべきではないか。しかし、現在、原子力問題は、政治、社会、教育全てに絡んだ問題である現代社会は、経済が優先されているが、宗門人は、今一度、石橋湛山師の小日本主義を参考に現代社会を見つめ直す必要があるのではないか。

◎ 分散会報告(協議事項)

- ① 日蓮教学から『フクシマ』をどうとらえるか
- ② 予想される東海地震を踏まえた浜岡原発どうとらえるか
- ③ 被災者支援の方法を考える

◎ 第 1 分散会

近い将来起きるであろう、東海地震に対し、特に静岡県は甚大な被害が予想される、本堂・庫裡の耐震化に最大限努力する、避難場所に指定されると推測される。福島原発事故を、日蓮教学的にどう考えるかは、東京都知事の天罰発言について一理あるのではと言う声も出たが、人間が傲慢に成りすぎた反省もある。しかし、福島の被災地の方に与えられた天罰はない、共に苦しみを分かち合う心を求められている。

◎ 第2分散会

宗門として、まだ方向性が出ていない現状で原発に付いての是非を出すのは難しい、個人的には、誰も即時完全停止の方向に向かうのが望ましいと考えて居る人が大半だが、原発で生計を立てている人も少なくない事も考えなくては行けない。寺が、避難所・ご遺体安置所になるのは当然だが、静岡中部宗務所が実施した防災アンケートによると、耐震工事を実施した寺院は24%程で又過去帳、檀信徒名簿の保全等をしている寺院は28.5%、その他は検討中との回答であった。また、災害に対する準備は進んでいない状況が見受けられる、又山梨県と静岡県では、震災特に津波を含むと温度差がある震災があり、計画停電と同時に節電の意識も起きたが日にちが経つと忘れてしまいがちになる、講演の中で少欲知足とあったが全ての物に感謝する心を忘れてはいけない、僧侶は、それを伝える、義務と責任がある。

◎ 第3分散会

静岡県西部宗務所管内寺院は、中部電力浜岡原子力発電所より、30K圏内に多くの寺院が有る、震災・津波被害を考えると、完全停止と廃炉を望む声が多い、しかし原発関連施設で生計を立てている方も多く、住職として声を上げるのは難しい、今回の教化研究会議開催前に僧侶としての考えを聞きたく浜岡町(現 御前崎市)の寺院住職に(他宗)面会を依頼したが、全て、檀信徒の中に関連施設に従事している為、拒否されてしまった。地元での反対運動を見ても多くの参加者は、遠方の者が多く参加している宗門は、言うまでもなく、山静教区間で被災地、被災者支援のネットワークを速やかに構築すべきで有る、又住職、檀信徒、寺族が常に被災者なりうる事を前提に、防災とその後の互いの支援に付いて管内での研修の場を作り常に防災意識を高める事が必要。

◎ 教化研究会議後の取り組み

- ① 檀信徒協議会等と、協力し話し合い、研修会を開催する。
- ② 早期に檀信徒青年会を各寺院で立ち上げ、寺院護持会と話し合える場を作る。

**浜岡原子力発電所の概要
参考資料**

	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機
電気出力	54万kw	84万kw	110万kw	113.7万kw	138万kw
着工年	昭和46年3月	昭和49年3月	昭和57年11月	平成元年2月	平成11年3月
運転開始	昭和51年3月	昭和53年11月	昭和62年8月	平成5年9月	平成17年1月
運転終了	平成21年1月	平成21年1月			
燃料棒	368本	560本	764本	764本	872本

電源立地促進対策交付金(電源三法…電源立法)交付金配分

① 1・2号機(昭50年～昭53年)

	配分率%	配分金額 千円
御前崎町	38.3	632,162
相良町	38.3	631,634
大東町	11.7	192,07
小笠町	11.7	192,07
計	100.0	1,647,936
浜岡町	100.0	1,647,936

発電所からの距離・人口で配分

② 3号機(昭58年～昭63年)

	配分率%	配分金額 千円
御前崎町	37.0	1,710,000
相良町	34.4	1,590,000
大東町	14.3	660,000
小笠町	14.3	660,000
計	100.0	4,620,000
浜岡町	100.0	4,620,000

基本配分は同じだが御前崎港を使用の為up

③ 4号機(平元年～平10年)

	配分率%	配分金額 千円
御前崎町	37.0	2,055,101
相良町	34.4	1,910,649
大東町	14.3	794,286
小笠町	14.3	794,286
計	100.0	5,554,322
浜岡町	100.0	5,554,322

④ 5号機(平12年～平21年)

	配分率%	配分金額 千円
御前崎町	37.0	2,680,700
相良町	34.4	2,492,300
大東町	14.3	1,036,000
小笠町	14.3	1,036,000
計	100.0	7,245,000
浜岡町	100.0	7,245,000

浜岡町及び近隣町交付金額

1号機～5号機	配分割合と金額
浜岡町	100 19,067,258
御前崎町	37 6,624,583
相良町	37 6,624,583
大東町	14.4 2,682,356
小笠町	14.4 2,682,356

浜岡町の人口推移と町決算額

年度	人口(人)	決算額(千円)
昭和45年	17,177	842,095
50年	18,621	2,427,888
55年	19,859	4,544,775
60年	22,155	6,935,233
平成 2年	22,891	12,269,278
7年	23,547	12,170,504
12年	24,490	13,508,602

平成 25 年度第 46 回中央教化研究会議

平成 25 年 9 月

福井県南部宗務所 浅野修章

第 30 回北陸教化研究会議 議題内容

福島原発の事故以来、反原発の動きが高まり、福井県若狭地方も全国で一番多く原発を抱える地域である事から注目されている。

福井県若狭地方には現在、若狭湾、小浜湾に沿って敦賀発電所 2 基、もんじゅ 1 基、美浜発電所 3 基、大飯発電所 4 基、高浜発電所 4 基、計 14 基の原発が集中しているが、若狭地方には、過去に大きな地震が少なく阪神地方に近いことから原発の立地建設が進められたと考えられる。

昨年大飯原発が再稼働したが、近隣住民は不安な気持ちで生活されている方も少なくはない。

しかし、福井県若狭地方には地元を支える主な産業がなく、地元で仕事を持ち生活していくには、原発がなければ成り立ちにくい現状にある。

原発に関わる下請け業者や民宿など、原子力発電所で働く人だけでなく、ほとんどの職場に多大な影響が出てくることは間違いない。

福井県若狭地方では原発が地域に存在し、稼働していても稼働停止していても危険性から解放されない不安感と、仕事を持ち家族を養っていかなければならないという現実にはさまれ、簡単に原発推進、反対と決められない現状にある。このため福井県南部当番、教区教化研究会議では、本年 11 月 7 日の分散会において、「私達宗教者が原発立地地域において出来ること」を協議したいと考えている次第です。